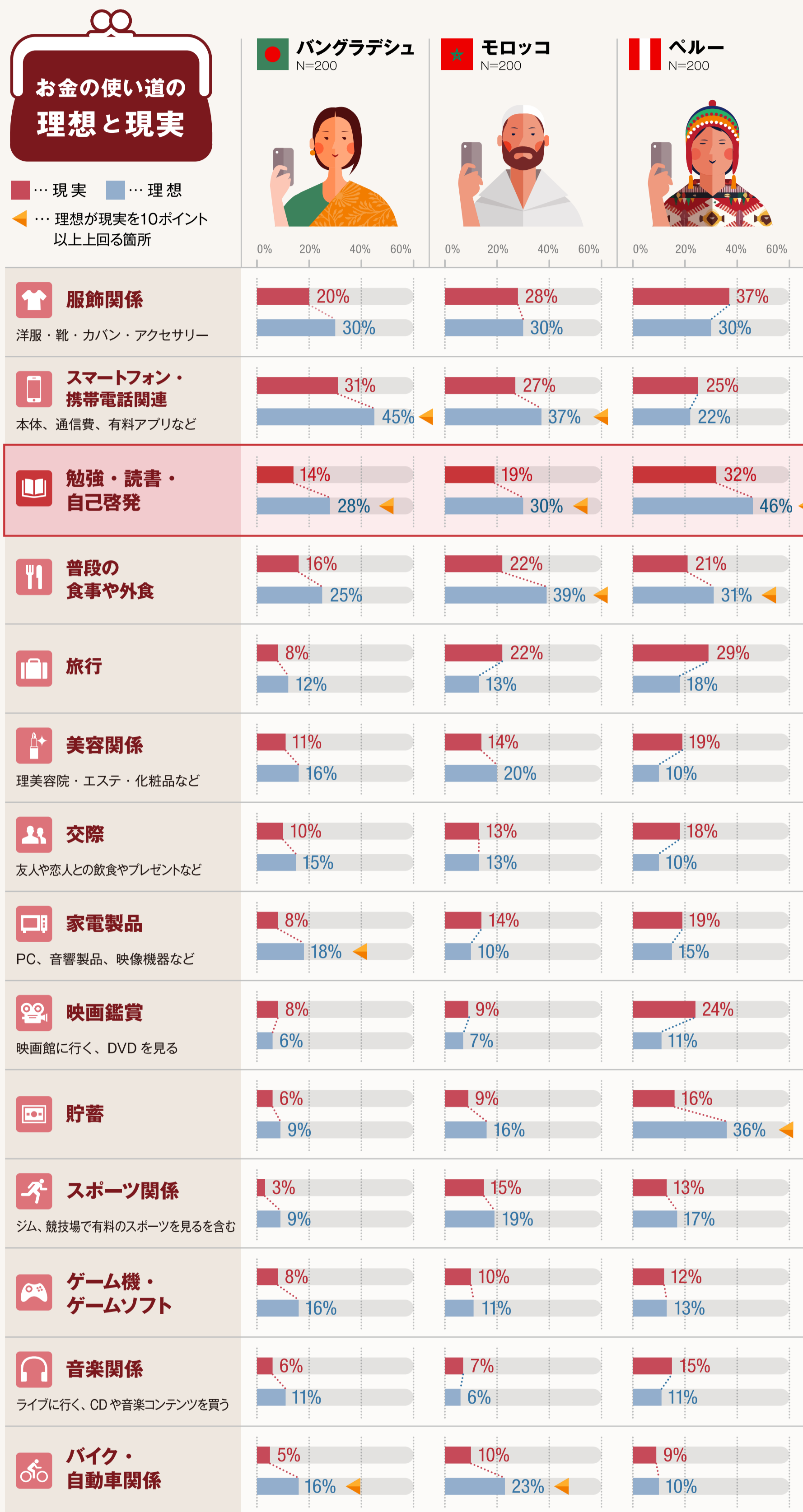




世界の若者事情 ～赤道編～

赤道付近の成長国に住む若者の欲しいもの（お金をかけたいこと）と、実際にお金を使っているもの（こと）のギャップを調査いたしました。



「現実」= 最近1年以内に小遣いで買ったものやお金をかけたこと
 「理想」= 買いたいものやお金をかけたいこと（重要な順に3項目選択）



3か国に共通して、自己への投資（「勉強・読書・自己啓発」）に意欲的

各国の特徴を見てみると、バングラデシュはスマートフォン関連や服飾関係、家電製品等、モノの購入意欲が高いのが特徴で、モロッコはスマートフォン関連の他に、旅行や車関係への関心が高くなっています。一方、ペルーの若者は自己への投資の次に貯蓄への意欲が高いことが特徴で、実際に自己投資や貯蓄にもお金をまわしている様子も伺えます。

注：モバイル調査のため、スマートフォン・携帯電話関連への投資やその意向は高く出る傾向があります。

- 調査時期 : 2015年8月
- 調査対象国 : バングラデシュ・モロッコ・ペルー
- 調査対象 : 15歳～29歳の男女各100人
- サンプル数 : 200人×3か国
- 調査手法 : モバイル端末を利用したインターネット調査
- 調査機関 : 株式会社レアソン、GMOリサーチ株式会社